

平成 26 年 11 月 23 日 (日) 第 9 期アレルギー大学 研究実践講座

記念講演・研究実践報告

認定 NPO 法人 アレルギー支援ネットワーク

会場:ウィルあいち セミナールーム 1・2

午前の部 9:15 受付開始

9:30~10:30 研究報告

座長 和泉 秀彦 名古屋学芸大学 教授

「ベイクドミルク中のタンパク質の存在状態」 9:35~9:50

名古屋学芸大学 管理栄養学部管理栄養学科 内藤 宙大氏

「食物アレルギーの食事指導について」 9:50~10:35

あいち小児保健医療総合センター アレルギー科

名古屋学芸大学 大学院 栄養科学研究科 榎村 春江氏

休憩 10:35-10:45

10:45~12:15 記念講演

座長 和泉 秀彦 名古屋学芸大学 教授

「近未来の食物アレルギー対応」

講師 宇理須 厚雄 氏

藤田保健衛生大学医学部 客員教授

小児アレルギー学会の一般演題の数を見ると、食物アレルギー関連が気管支喘息やアトピー性皮膚炎関連の演題を数年前に超え、その差がさらに大きくなっている。食物アレルギーへの関心の高さを反映しているだけでなく、やらなければならない課題が多いともいえる。さらには、診断や治療において目覚まし進歩があることも大きな要因である。社会的対応においても、アレルギー加工食品表示などにおいて新たな改善の方向性が出ている。本講演では、食物アレルギー対応における近未来の展望について解説する。

午後の部 12:40 受付開始

12:50~14:05 記念講演

座長 伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 内科部長

「こどものこころとからだ」

講師 沼野 みえ子 氏

新潟県立大学人間生活学部子ども学科 教授

人間と同じ種の哺乳類の子育てを見ていると、お乳を飲ませて、お尻や身体をなめてあげて、何とかなければ付かず離れず見守っている。こどもは母親の後をくっついて色々なことを覚え、そしてやがて独立していく。いたってシンプルで余計な手出しはしない必要最低限の子育てのように見えます。人の場合、複雑な人間社会を生きていくにはこんなシンプルな子育てではダメなのかもしれません。でも最近の子どもたちを見てみると、このシンプルさを少し見習ってもよいのではないかという気持ちにさせられます。完璧な子育てなどないと思いますが、子どもが自分らしくのびのびと育っていける環境があるのではないかと考えています。

休憩 14:05-14:15

14:15~16:40 研究実践報告 (各13分)

座長 伊藤 浩明 あいち小児保健医療総合センター 内科部長

1. 「美濃加茂市周辺のアレルギー児の親の会設立」 丹羽 恵子
2. 「園におけるヒヤリハット」 田垣内 菜実
3. 「理解の輪を広げるために」 武藤 晃子
4. 「アレルギー児の親としての周囲との関わり方や活動」 深谷 里枝
5. 「みんなでおいしく食べようね」 鳥居 慶子
6. 「絵本“エピペン打つのはこわくない”ができるまでと今後の活動」 田中 香織
7. 「飲食店と業者間・学校対応について」 岡角 江理
8. 「保育園入園、それまでの道のり、これからの道のり」 吉川 寛子
9. 「災害時の対策」 梅津 朋子
10. 「離乳期の母親のアレルギーに対する関心」 伊藤 日奈子
11. 「アレルギー食と向き合って」 高木 直子